



第10回久良岐狂言会

狂言

東次郎

重要無形文化財(各個認定) 人間国宝

鬼の継子

樋の酒

宗論



日時 平成30年3月18日(日) 開演 午後2時00分 (開場 午後1時30分)

料金 3,500円 会場 久良岐能舞台 くらきのうぶたい 横浜市磯子区岡村8丁目21番7号
(全自由席 / 未就学児不可)

お問合せ・ご予約 045(761)3854 受付 10時~17時

主催 横浜市能楽堂久良岐能舞台

《プロフィール》

狂言方大藏流 山本東次郎家四世
 本名 山本東次郎 名乗 則寿
 1937年 三世山本東次郎の長男として東京杉並区和田に生まれる
 1961年 國學院大學日本文学科卒業
 1942年 山本会の「痿痺」のシテで初舞台
 1964年 文部省芸術祭奨励賞
 1972年 四世山本東次郎を襲名
 1992年 芸術選奨文部大臣賞
 1994年 観世寿夫記念法政大学能楽賞
 1998年 紫綬褒章受章
 2001年 エクソンモービル音楽賞(邦楽部門)受賞
 2007年 日本芸術院賞受賞
 2012年 重要無形文化財(各個認定) 人間国宝
 2017年 日本芸術院会員

一般財団法人杉並能楽堂理事長
 公益社団法人能楽協会会員

主な著書

「狂言のすすめ」(玉川大学出版部)
 「狂言のことだま」(玉川大学出版部)
 「山本東次郎家 狂言の面」(玉川大学出版部)
 「狂言 山本東次郎」(共著、新人物往来社)
 「中・高生のための狂言入門」(共著、平凡社)

鬼の継子(おにのままこ)

子供を抱いた若い女が親里へ向かう旅の途中、播磨国の印南野という地に差し掛かります。日も暮れ、物寂しい心地でいるところに、鬼が現れます。鬼は幼子をおおうとしますが、子を助けて欲しければ、自分の妻になるよう女に迫ります。女は渋々承知しますが、支度をする間、子守をするよう鬼に頼みます。「鬼の継子を肩に乗せて蓬萊の島へ参らう」と謡いながら子を遊ばせているうちに、子があまりにおいしそうに見えてきた鬼は、本性を現し…

樋の酒(ひのさけ)

これから出かける主人、留守の間に大事なお酒を勝手に飲まれてはたいへんと、二人の召使を蔵に閉じ込めました。お酒の好きな太郎冠者は軽物蔵(かるものぐら・衣類などを納める蔵)へ。お酒が飲めないはずの下戸(げこ)の次郎冠者は酒蔵へ。これなら安心と主人は出かけました。ところが酒蔵に閉じ込められた次郎冠者は、実はお酒が大好きだったのです。酒蔵のお酒を飲み始めた次郎冠者の声が小さな窓から聞こえてくると、太郎冠者はもうたまりません。一方の次郎冠者も何とか太郎冠者に飲ませてやりたいと考えています。そのとき太郎冠者の目に入ったのが、雨樋(あまどい)にしている太い竹の筒。二人は二つの蔵の窓の間にその竹筒を渡し、次郎冠者がそこからお酒を太郎冠者のほうへ流し始めました。そしてにぎやかな酒盛りが始まったのですが…

宗論(しゅうろん)

出家狂言。身延山へ参詣した法華僧と善光寺へ参詣した浄土僧(シテ)が道連れになり、互いにわが仏尊しと争います。宿に泊って宗論が始まりますが、どちらも珍妙な法文を説き、相手を説得できません。ひと寝入りののち、二人は読経をし、ついには踊り念仏・踊り題目でせりあいますが、念仏と題目を取違え、法華も浄土も釈迦の教えにへだてはないと悟ります。宗旨争いの愚かしさを滑稽に描き、人間すべてに普遍的な我執と偏見を風刺した狂言です。

《曲目・配役》

鬼の継子	シテ(鬼)	山本 則孝
	アド(女)	山本凜太郎
樋の酒	シテ(太郎冠者)	山本東次郎
	アド(主)	山本 則秀
	アド(次郎冠者)	山本泰太郎
	休憩	
宗論	シテ(浄土僧)	山本 則秀
	アド(法華僧)	山本凜太郎
	アド(宿屋)	山本泰太郎

お話 山本東次郎

【バス時刻表】

最寄駅	乗車系統名	乗場	発車時刻
京浜急行 「上大岡駅」	横浜市営バス 64系統「磯子駅前」(注)	12	13:06
	京急バス上7系統 笹塚・泉谷循環	2	12:58
JR 「磯子駅」	横浜市営バス 78系統「根岸駅前」	2	12:55
	横浜市営バス 64系統「港南台駅前」	2	13:00
京浜急行 「屏風浦駅」	横浜市営バス 64系統「港南台駅前」	3	13:05
	横浜市営バス 78系統「根岸駅前」	3	13:00

※バスの時刻は予告なく変更となる場合があります。詳細は運行会社へお問い合わせください。

※上大岡駅の横浜市営バスは乗場が鎌倉街道沿いになります。(注)

※全ての駅から所要時間は約10分。「笹塚」下車。下車後、徒歩約5分。

※タクシーをご利用の場合：京急上大岡駅東口乗車約5分。(800円程度)

※駐車場がございませんので、ご来場の際は公共交通機関をご利用くださいませ。

